

日頃より多くのご支援・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。学校評価の中間評価をまとめましたのでお知らせいたします。また、9月に開催された第2回学校運営協議会で出されたご意見、保護者アンケートでの自由記述等もお伝えいたします。今後も上戸小学校の更なる活性化に向け、保護者・地域の皆様と共に頑張っていきたいと思います。何卒宜しくお願ひいたします。

令和7年9月 珠洲市立上戸小学校長 寺井 純子

令和7年度

学校評価項目

珠洲市立上戸小学校

重点目標	自己評価					備考
	評価項目	具体的取組	評価指標	評価：達成度判断基準	取組の状況・結果	
学びづくり	総合的な学力の向上	・学力調査の結果を分析して定着していない内容を授業や朝学習での補充 ・授業での学んだ知識や言語力を活用して思考、判断し表現する活動場面を設定 ・国語検定、算数検定の実施	【成果指標】各種・学力調査の結果が県及び国の平均を上回っている。	全国学力学習状況調査・県基礎学力調査の結果が県平均・市学力調査の結果が全国平均を上回っている教科が全体の A: 80%以上 B: 75%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	調査対象は11科目で、そのうち全国平均や県平均を上回っている科目は11科目で100%だった。各学年において、確実に学力が向上している。学力調査の結果を分析し、一人一人の児童のさらなる学習内容の定着を目指し、学習指導の改善を図っていきたい。	A 主担当:中村 評価方法: 学力調査 評価実施時期: 8月、1月
	学力向上プランの推進	・授業でリレートークによる対話場面の設定 ・話し方、聞き方を各学級の実態に応じた指導	【成果指標】相手の話をしっかりと聞いたり自分の考えを伝えたりすることができる力が児童に身に付いている。	学習アンケートで「みんなに聞こえる声で考えを伝える」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 95%以上 B: 85%以上 C: 75%以上 D: 75%未満	4月～7月のアンケートでは、肯定的な回答をした児童の割合は95%だった。自分の考えと比べながら友達の話を聞き、自分の考えを伝えることができている。集会の場でも、積極的に自分の考えを伝えられるようにしていきたい。	A 主担当:中村 評価方法: 児童に対する学習アンケート 評価実施時期: 7月、1月
	GIGAスクール構想の推進	・週に一度、タイピングの技能を計測する時間の設定 ・まとめ学習や家庭学習等で、積極的なクロームブック活用 ・3年生以上でのローマ字の定着	【成果指標】児童にタイピングの技能が身に付いている。	タイピングのアプリを活用する。5分間で入力できる文字数の平均(3～6年)が A: 390文字以上 B: 360文字以上 C: 330文字以上 D: 330文字未満	3年生以上は、朝学習で週に一度タイピング技能を測定する時間を設けた。平均は、451文字と目標を大幅に超える結果となった。個人差もあり、25%の児童はDであったがどの児童もタイピング技能の向上が見られた。今後も継続して取り組んでいくとともに、まとめ学習や家庭学習での活用も積極的に行っていきたい。	B 主担当:辻・松本 評価方法:タイピングアプリ 評価実施時期: 7月、1月
心づくり	明るい挨拶で笑顔があふれる学校づくり	・生活目標に挨拶に関する目標を設定による挨拶の習慣の定着 ・「あいさつ4つのコツ」を学級で指導し意識化	【満足度指標】児童がすんで挨拶する習慣が身に付いている。	児童アンケートで「挨拶は、明るく、いつでも・どこでも・だれにでも、先にしている。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の70%未満	アンケートの結果は肯定的な回答が100%だった。生活目標の設定や来客や施設訪問に合わせた学級での指導から意識して取り組むことができてきた。しかし、普段の挨拶や急な来客等への挨拶では、進んであいさつが出来ていな場面もある。今後は、よりよいあいさつができることをを目指し、日頃から学校全体で指導していきたい。	A 主担当:辻 評価方法: 児童アンケート 評価実施時期: 7月、1月
	児童が相談できる体制の構築	・スクールカウンセラーの個人面談の実施 ・担任との個人面談の定期的実施	【努力指標】児童が相談できる機会を設けている。	月1回以上児童との面談を行ったクラスが A: 3学級 B: 2学級 C: 1学級 D: 0学級未満	毎月担任との個人面談を行うことができた。今年度からは、学校生活アンケートに「笑顔になったこと」の項目を設け、面談でもプラスな声掛けができるようにした。また、6月には担任以外との面談やスクールカウンセラーとの面談を行い様々な先生に相談できる機会を設けることが出来た。今後も、児童がいつでも・だれにでも相談できる体制を整えていきたい。	A 主担当:辻 評価方法:担任からの報告等 評価実施時期: 7月、1月

重点目標	自己評価						備考
	評価項目	具体的取り組み	評価指標	評価：達成度判断基準	取組の状況・結果	達成状況	
体づくり	体力の向上	・毎回の体育授業での3分間走の導入 ・ゴールデンタイム等を通じた、授業以外の時間にも、積極的に体を動かす状況づくり	【成果指標】 体力テストで持久力に関する項目「20mシャトルラン」が県平均を上回っている。	「20mシャトルラン」において、県平均を突破した児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	県平均を突破した児童の割合は81%であった。具体的な取り組みをしっかりと継続できたことがよかったです。今後は、持久走大会を児童のモチベーションとし、走り方を教えてくれる講師の派遣、マラソンカード活用した環境整備等に努めていく。	B	主担当:松本 評価方法: 20mシャトルラン 評価実施時期: 7月、1月
	健康教育の推進	・「元気アップカード」を月ごとに実施し、規則正しい生活習慣の定着 ・早寝・早起きの大切さ、メディアの使用時間等についての指導。 ・朝ごはんの大切さや食事のマナー等の食育の実施	【満足度指標】 学校での指導や家庭での働きかけの結果、子ども達の生活習慣が向上している。	保護者アンケートの「早寝・早起き・朝ごはんが実行できている」という項目に肯定的に回答した保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	肯定的回答は88%であった。児童に行なう毎月の元気アップカードでは、全員朝食を食べておらず、起床時間や就寝時間においても意識して取り組む様子が伺える。今後も、家庭と連携し、生活習慣の向上に努めていきたい。	B	主担当:上田 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月、1月
絆づくり・開かれた学校	地域の教育力の活用	・地域人材を活用し、地域の特色を生かした授業実践の実施	【努力指標】 生活科、総合的な学習、道徳などの授業やクラブ活動などで、地域の人材を活用する授業を行っている。	学期に1回以上行った学級が A: 3学級 B: 2学級 C: 1学級 D: 0学級	国語や生活科、総合などで地域の方を招きし、全学級で地域人材を活用した授業を行った。2学期には、道徳の授業でゲストティーチャーを招いての授業を予定している。今後も、地域の特色を生かした授業づくりを推進していく。	A	主担当:梶 評価方法:担任からの報告等 評価実施時期: 7月、1月
	学校情報の積極的な公開と家庭・地域への適切な説明	・学校だよりや学級だよりの発行、ホームページの充実による保護者や地域方の学校経営方針や教育内容についての周知と理解の推進	【満足度指標】 保護者が学校の教育方針や児童の様子が伝わっていると感じている。	保護者アンケートで「学校だより、学級だより、ホームページ等で児童の活動の様子が伝わりやすい。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、 A: 85%以上 B: 75%以上 C: 65%以上 D: 65%未満	肯定的回答は100%であった。ホームページの更新頻度が昨年以上に増えていることが要因として考えられる。一方で肯定的評価の内実を調べると、「とても」が減り「まあまあ」が増えていることから、学校だよりや学級だより、ホームページの内容については、検討していく必要がある。	A	主担当:三益 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月、1月
人材育成・働き方改革	人材育成	・若手が中心となって、職員全体で学ぶ機会の設定 ・日常的に、かつ月1回短時間でも設定し、授業や行事に実践的に生きる研修の実施 ・夏季休業中の若手主催で研修会の実施	【満足度指標】 若手教員早期育成プログラムの研修により、職員が指導力や・授業力が向上したと感じている。	教職員アンケートで「校内研修が、授業力の向上や授業改善に生かされている」に対し、肯定的な回答をした教職員の割合が、 A: 100% B: 85% C: 50% D: 25%未満	アンケートの結果は肯定的回答が100%だった。今年度は授業づくりを中心とした研修を実施している。若手の提案力を高め、指導力や授業力の向上を図るために他校と連携した研修会も実施した。後期は、「とてもそう思う」が100%となることを目指す。	A	主担当:梶 評価方法: 実施回数 評価実施時期: 7月、1月
	働き方改革の推進	・校務分掌の平準化と担当の明確化を図り、意識改革の推進 ・業務改善のための会議の定期的に開催 ・校務支援システムの活用による業務改善の推進	【成果指標】 教職員が働き方改革を意識して効率的に業務を行い、時間外勤務時間を削減している。	定時退校日を月に3回(第3水曜日、最終金曜日、マイ定時退校日)とし、定時退校日を3回以上取得した割合が、 A: 150%以上 B: 130%以上 C: 100%以上 D: 100%未満	149%であった。ほぼAを達成しているものの、今後は、一層、見通しを明確にしながら各自が業務に取り組むことができる状況をと立てていく。また、教育DX化に伴う校務支援ツールの使用法に戸惑い時間がかかってしまったこともあったが、今後は本来の業務軽減に役立つと考えられる。	B	主担当:三益 評価方法: 勤務時間記録表、 職員アンケート 評価実施時期: 7月、1月

I 令和7年度第2回学校運営協議会（9月18日実施）

協議題「地域ともにある学校～やってみたい・やらせてみたい〇〇な活動～」

1 協議で出された意見（地域や児童との交流について）

- ・行事（ハロウィンでの訪問、茶会の開催、せんだんコンサートなど）を通して地域と交流したい。
- ・オセロや将棋、昔遊び（けん玉、めんこ、お手玉、あやとり等）と一緒に楽しみたい。
- ・学校行事は「参観」だけでなく、なわとび大会や百人一首大会などに地域の方も一緒に参加できると良い。
- ・地域の方の特技を披露し、子どもたちに教える機会をつくりたい。

2 学校評価に対する意見

<学びづくり>

- ・学力テストの結果からも、きめ細かな指導が行われていることがうかがえる。
- ・授業参観では、国語では本の紹介やタブレットを用いた調べ学習、外国語活動ではデジタル教科書を使い、少人数を生かした活発な活動が見られた。児童が意欲的に取り組んでいる。

<体づくり>

- ・子どもの体力低下が心配されたが、特に見られない。
- ・すこやか会によるバスケットやトランポリン活動などが良い成果につながっている。

<人材育成・働き方改革>

- ・教育内容が時代とともに変化し、教員の負担も大きいと思う。
- ・働き過ぎにならないよう、無理のない範囲で取り組んでほしい。

3 その他の意見

- ・児童（5・6年生）が協議に参加して意見を述べたことは貴重で、普段とは違う姿が見られて良かった。「自ら学ぶ」姿勢が育っている。
- ・地域の祭りや「キアラゲ」などに児童が参加し、町に対する思いを育む活動を今後も続けていきたい。
- ・地域の人が先生となって運営する「すこやか会」は、発足当初の理念「地域の子どもは地域で育てる」を体現しており、地域クラブの先駆けともいえる。
- ・授業では、子ども同士、子どもと教師、教師同士の良好な関わりが感じられ、クラス全体も間違いを認め合う雰囲気があった。
- ・評価はほとんど肯定的で、子どもも先生も頑張っていると感じる。資料を事前に配付していただいたこともありがたかった。

- ・来年度 150 周年を迎える学校として、児童数が減少していても授業や地域活動の工夫により進化している。上戸小学校は地域の宝であり、PTA としても協力していきたい。

II 保護者アンケートでの自由記述内容

◆上戸小学校をよくするためのご意見等がございましたら、是非お書きください。

- ・通学路に危険な場所があり、大人の付き添いがないと、とても心配です。

→通学路の安全確保につきましては、これまでも点検を行い、必要な対応を進めてまいりましたが、十分とは言えない状況もございます。今後も関係機関と連携しながら、改善に向けて働きかけを続けてまいります。

- ・保護者からの要望や相談にも、前向きに検討していただいていることに感謝しています。地域の方との交流も積極的に取り組んでもらえているのは、すごくありがたいと感じています。微力ですが、協力したいと思っています。

→保護者の皆様からの温かいご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

今回の運動会では、保護者の皆様がダンスの練習や準備に熱心に取り組んでくださったおかげで、児童・保護者・学校が一体となり、すばらしい演技をつくりあげることができました。地域の方々との交流も含め、今後も皆様とともに歩む学校づくりを進めてまいります。

- ・地域の方たちとの交流を大切にしてくださっているおかげで、地域の方が子どもたちのことを大切にあたたかく見守ってくださっていると感じます。先生方の子どもたちへのあたたかくて熱心なご指導も授業参観や行事ごとに感じます。のびのびと楽しい環境を作っていただき、本当にありがとうございます。

→今後も、児童がのびのびと学び、安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- ・ブランコを直してあげてください。

→ブランコにつきましては、現在修理の対応を進めております。

今年度は、ブランコの故障に伴い、新しい一輪車を導入いたしました。一輪車の運動には、体幹の強化に加え、姿勢やバランス感覚の向上といった効果があるとされており、児童の健やかな成長を支える一助となることを期待しております。

ぜひ、子どもたちが積極的にチャレンジしてくれることを願っております。